

***ISFJ** Inter-university Seminar for the Future of Japan*

ISFJ 2022 中間発表会 活動報告書

文責：広報部 伊藤佑悟

【日時】

2022年9月25日(日)

【会場】

zoom(新型コロナウイルス感染症により)

【参加】

25大学27分科会104チーム

【概要】

中間発表会は、各研究会が分科会ごとに分かれてそれぞれの研究成果を発表し、専門家の方々からご意見をいただく催しです。12月10日・11日に開催される政策フォーラムに向け、完成度の高い論文を仕上げていくことを目的としています。発表後には、発表を聞いていた研究会による質問や意見シートの提出、専門家の方によるコンサルティングタイム等、第三者視点からの意見を頂戴できる機会を多く設け、最終論文の執筆に向けて疑問点や不安点を解消すること

【企画内容】

各研究会の皆様による20分間の発表を踏まえ、聞き手である残りの研究会の皆様には質疑応答と意見シートを記入する時間を10分間設けました。

研究会1班の発表が終了するごとに、20分間コメンテーターの方と個別に相談するコンサルティングタイムを設け、参加者の皆様が抱えている疑問などにお答えいただき、論文や発表の向上に向けたアドバイスをいただきました。

なおコメンテーターの皆様には前もって、参加者の皆様に事前に提出いただいた中間論文を読んでいただき、論文中の論理破綻、事実誤認などの基本構成および発表の不備、論文と発表間の齟齬の有無について確認していただき、忌憚のないご指摘をお願いいたしました。

また、会の最後にはコメンテーターの皆様から総評をお一方10分ほどいただき、これをもって閉会と致しました。

【責任者総評】

昨年に引き続き、今年度の中間発表もzoomによるオンライン形式の発表となりました。研究会同士の意見交換が活発に行われており、学生間でお互いに高めあうことができたと思います。しかしながら、より参加者の満足度を高めるために、進行スケジュールを見直すべきだと感じました。

<変更目的>

拘束時間を短くすることで、参加者負担を減らす

<変更すべき点>

各休憩時間を短縮し、会全体としての拘束時間を短縮する

例：昼休憩の1時間を30分に短縮する

<時間短縮が可能な理由>

- ①オンライン形式により移動やセッティングなどが不必要となり、進行がスムーズになったこと
- ②他の研究会の発表時に対面よりもリラックスして参加できるため、休憩時間が必要以上の長さであった